

大鍋又沢右俣・左俣

1984年8月25日

L

7:10番来沢に向かう道が大鍋又沢を横切る所から進行開始する。

最初は平凡な河原だが、すぐにゴルジュとなって、きれいな瀬も出てくる。こうなると、ついついこれからの進行に期待してしまう。

ゴルジュをぬけると、最初の支沢が分岐する。支沢を少し登れば、すぐわきをはしる道路に出ることができるので、帰りにはこちらを利用した。

この先すぐまた支沢が分かれ、支流には3mの滝がかかっている。本流の方は再びゴルジュとなり、3m、1mの2段の滝を登る。トイ状のきれいなナメがでてくる。思わずはしゃぎだしたくなるような所だ。

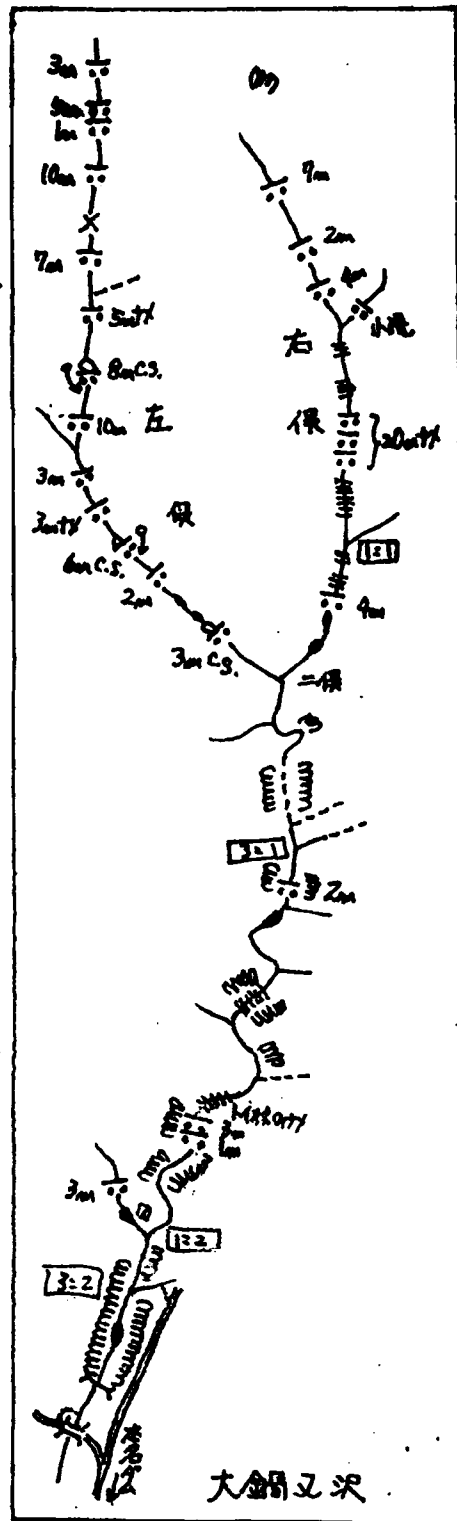
この先は平凡で、広々とした河原に出たかと思うと、水の濁れかかった二俣となる。後線を見渡すと、上の方は岩場だらけなので、ツメは岩登りになるのではないかと話ながら遡る。このあたりイワナを何度か見る。

二俣着9:05。左俣は下降に使うことにして、右俣に入る。

右俣は全くの期待はずれ。3段20mのナメ滝が出ただけで、水も濁れ、ヤブをこいで、11:35後線に出る。

後線は、展望のきく所ぐらいあるだろうという期待に反し、ひどいヤブで、休むこともままならず、11:40下降に入る。

しばらく下って、ようやく沢らしくなってきた時、思わぬアクシデントが起きた。尖戸さんが浮石を踏んで転倒、手首を骨折してし

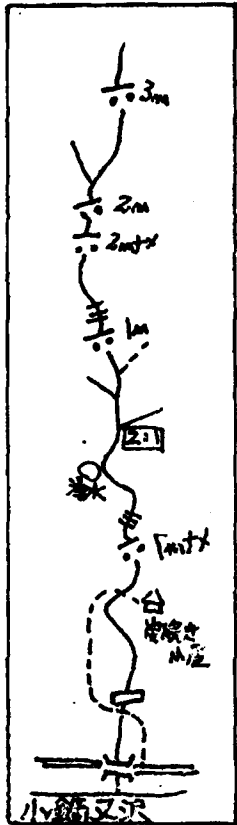


まったのである(進行図の×地点)。13:00まで停滞し、何とか歩けそうだというので、下降を再開したが、今までの半分以下のペースである。

二度の懸垂下降を強いられたが、どうにか14:45二俣着。車デポ地に着いたのは、16:20だった。

骨折したのが手首だったので、何とか自力下山できたが、これが足だったらと思うと、改めて沢登りにひそむ危険性について考えさせられる山行でした。 (記・

[タイム] 出合(7:10)→二俣(9:05)→緩線(11:35)→下降開始(11:40)→二俣(14:45)→下降終了(16:20)



小鍋又沢

1984年8月26日

L

小鍋又沢は、只見の沢の中で、何も無いという点ではトップクラスである。滝らしい滝もなく、堰堤と炭焼き小屋が出てきただけで、あとは行けども行けどもヤブこぎ山行となる。あまりに早く下ってしまったので、二俣から右俣に入ってみるが、同様の沢なので、すぐにやめて引き返した。

(記・

[タイム] 遊行開始(6:35)→終了(7:55)

かあらいど沢右支流

1984年8月25日

L

風来沢橋のたもとに車を置いて出発。今日の目標である右支流の出合までは、地図上の等高線の間隔からいって平凡な河原歩きが続くだろうと考えていたのだが、あにはからんやゴルジュを食んだなかなか変化のある沢登りとなった。

出発して10分と歩かないうちにまず第1のゴルジュ。規模は決して大きいとはいえないのだが、青白い岩肌に囲まれた深い溜には一種独特のすごみが感じられる。このゴルジュには2つのトロがあって、奥のものは最初は左岸、途中からは右岸に移っての水中へつりとなり、胸まで水につかる破目となった。今年は日照りが続いて、水量が例年の半分以下になっていてこの状態だから、水量が多い時などは泳ぐほがあるまい。